

ヨシィちゃんのひとりごと

貞教国民学校・昭和21年卒業の還暦同窓会

国民学校で何や？知らない人が多いかも知れない。

昭和16年から22年まで小学校をそう名付けた。皇国民の基礎的訓練を目的とした初等教育機関と位置づけ、天皇陛下のために死ねと教える学校だった。僕は「赤子(セキシ)」と言われ天皇の子で、男子は兵隊に女子は看護婦を目標に勉強した。当時は決して勉強させられたと思っただけではない。



今は開校で子供のいない貞教小学校。

入学は尋常(普通)と優れに意味(味)が国民学校だった。学校になってから体操で男子は「剣術」女子は「なぎなた」が教えられ、給食は「軍人勅諭」を全員で読んでから食べるのだ。今思えば「異常」だか当時の僕たちは「これが「平常」だと思っ



昭和21年 卒業男子組、窓硝子は割れ、ストローは煙突穴だけ

前、東山区馬町が米軍爆撃され、多数の死傷者が出て、学童疎開が始まった。五条通も強制疎開で家屋は潰された。その甲斐も無く、同年「神国日本」は戦争に負けた。敗戦の御蔭で疎開地から親の元に帰れて、平和を満喫できた。食料は無く餓え、頭のシラミは進駐軍のDDTで居なくなり、

皆様方、はじめまして。10月1日〜31日「集・サカタ」で個展をさせていたたく無口な絵売り「たけ」です。

なぜ、無口かと言えば、しゃべることが出来ないから無口なんです。僕は脳梗塞の後遺症で、言語全般、話す、聞く、書く、読むことが出来ないことと右手の麻痺障害など、いろいろ障害を患っています。自稱「日本一無口の絵売り」です。

僕や私は昭和21年3月「貞教国民学校」を卒業した。それから60年、今年が卒業の還暦だ。それで10月16日卒業の還暦同窓会をする。還暦とは元に戻ることにいわれる。どん底の日本を今、繁栄？の日本にしたのは60年生きてきた私たち世代、振り返って教訓とはするがあの時代に戻る事は断固拒否する。

近年、日本人は平和が続いて「平和ボケ」していると云う人が有るが、「戦争×違い」よりその方がよい。戦争は殺人と破壊の塊なのだから。私たちがどのような時代でも殺人者になりたくない。発病した時は、最初は俺は何と不幸なのかと自分の運命を憎むことがありましたが、絵という新しい表現方法を出来て、「自分の表現で生活する！」と決意して、リハビリ病院に入所中にもかかわらず路上販売を始めて、今年の4月で4年です。自分には「絵」しかないと思い、それに必死にしがみついて「人生最大の危機は、人生最大のチャンス」「生かされているこの命を感謝」と考え、生きるのが精一杯の4年間でした。でも、たった四年だけでも、人は大きく変わってゆくことができますとわかりました。

貞教国民学校昭和21年卒業生同窓会は、十月十六日(月)集西条サカタにて開催。恩師櫻井彌子先生ご参加されます。お問合せはサカタニ。電話561-7974



左の写真は無口な絵売り河村武明さん

人生は、年齢や、障害や、過去や、常識も関係なく、自分次第でいくらでも良い方向へ向かっていくものなんだなあと実感しています。この自分次第というものは「感謝」と思っています。私は発病前から「宇宙の法則」に興味があり、心の持ち方を勉強しました。その「宇宙学」にこんな言葉があります。「天地に風雨あるが如く、人生また順逆を免れず、順にして奢らず、逆にして尚その逆たることに感謝したい」いいときに感謝することはあたり前、うぬぼれなく、つらいときこそ感謝する、という意味ですね。私はこの障害に感謝しました。最初は心を込めない感謝と思いましたが、...

そう言えば、「有難う」の漢字は、「難」が「有る」から「有難う」という意味かもしれない。難がある時、辛い時こそ「ありがとう」ですね。お釈迦さまの台座の花というの

は、蓮の花ですね。なぜお釈迦さまの台座に蓮の花が選ばれたのか。蓮の花は、泥水の中からしか立ち上がってきません。真水であつたなら、蓮は立ち上げつて来ない。泥がどうしても必要らしいです。泥とは、人生になぞらえれば、つらいこと、悲しいこと、大変なこと。花を咲かせるためには、泥が必要である。ということをお釈迦さまは後世の人に伝えたかったようです。

私たちはいろいろな悲しい、つらさ、大変なことを経ない限り、美しい花を咲かせることはなほ難しいです。逆の、困難がきたときに、「ああ、私は美しい花をさかせることできる」として、「有り難い」ことだと感謝できる。私も作品に「ありがとう」がたくさんあります。「ありがと」とすべて思えばこんなに幸せな日があるのです。「神さま試練をありがとごさいます」「ありがたいと感謝するくせがあつてよかつた」「ボクラは「ありがと」「ごめんさない」とちゃんと書いた子供だった」など、どれも拙い作品ですが、僕の絵や詩、そして僕という人間の存在が、どんな形であれ、あなたの心に少しでも残ったならば本当に嬉しい限りです。

合掌 たけ

寄稿・投稿

この欄は皆様のスペースです。ご投稿寄稿をお待ちしています。匿名も可

「こころ坂」
楽々落語会
に出かけました
ケメコ通信@澤田好宏

8月も終わりと言つのにまだまだ暑かった31日の夜に集西楽サカタニ 楽々ホールであった第8回「こころ坂・楽々落語会」に出かけました。ぼくが毎日配信しているメルマガ「ケメコ通信」愛読者のサカタニさんから落語会の連絡が入ったからです。



出演者は「こころ坂・楽々落語会」が8回目にもなるという桂 米二さんと若手の桂 まん我さんに加え、今回は特別ゲストのあの笑福亭 鶴瓶さん。

開場時間の6時半頃に突然の大雨、激しい夕立でお客様の入りに影響がでるかと思いましたが、そこはチヨ一人気者の米二さんや鶴瓶さんの魅力なのか満員札止めでした。開演の7時から9時過ぎまでの時間に3人の高座です。今夜のお話は何故か三話とも全部が古き良き騒物の

時代のおはなし。それもそれぞれに死人がでてくるといいういわば「ホラーモノ」です。

一番手は若手の桂まん我さんの「胴切り」。これはキレモノの刀を買った辻斬りに胴を切られてしまった職人の話。あまりの使い手であったため切られたことも血がでることも感じることも無く、その後切り離された上半身と下半身がそれぞれ違う場所がらばって動くというむちゃくちゃなお話でした。

二番手はこの落語会の主役、桂米二さん。普段ではなかなか聞くことができないちよつと長めの「宿屋仇」という出し物です。お伊勢参りから帰ってきた兵庫の若者が足洗いに逗留した難波の旅籠で、隣り部屋に泊まった寝不足のお侍さんとのやりあうという話です。兵庫の若者のひとりが酒の席の大法螺でお武家さんのお内儀を色事で殺したという話が巻き起こすテンヤワヤの騒動。寝不足のお侍さんをもいえずにおもしろかった。



そしてトリはお昼に東京で「いいとも」のレギュラー出演をこなして駆けつけてくれた

笑福亭鶴瓶さんのおろしネタ「立ち切れ」です。好きあった若旦那と芸妓が無理やり引き離され、思いつめて死んでしまった芸妓のもとに駆けつけた若旦那が位牌の前で線香をつけるとなんと芸妓の三味線が聞こえます。でも線香が「立ち切れ」と。いつもテレビで見ている鶴瓶師匠とは趣のちがうしつとりとした色街の愛の話でした。終了後の打ち上げにも出させていただきました。



鶴瓶さんは京都産業大学、落研出身ですが実はあの「あのねのね」の一員でもあり奥さんは「あのねのね」のメンバーとだったらしい。鶴瓶さんの横に座らしていただいていたあのころの関西フォークの話をしていると、ぼくが一緒にやっていたザ・ダイツ「ケメ子の歌」はもちろんだ、その後結成したリトル・マギーの「女と男」もよく知っています。

ると言われます。そして極めつけはなんと「時計台の鐘のなる街」が好きだといえます。この歌はぼくが北海道礼文島にいたときの1972年の桃岩荘ユースホステルの「今年の歌」なんです。急遽用意してもらったギターでこの歌を歌うと鶴瓶さんも一緒に歌ってくれます。京産大生時代にカニ族としてまわった北海道の思い出の歌らしい。

ぼくより4歳若い鶴瓶さんも10歳若い米二さんも初めてお会いしましたが、同じ京都で、同じ歌を歌い、同じ場所をまわった仲間として、そして同じ時代を潜り抜けてきて今があるうれしい思いがぼくをつつんでくれました。(上の写真は終了後の反省会手前からケメコ通信澤田好宏氏、笑福亭鶴瓶師匠、桂 米二師匠、白髪男はヨシちゃん起立は社長酒谷宏之)

ヤンキー先生宇治に上陸! 熱血トーク聞かへんか!

11月3日(金)文化の日
午後1時~3時半
宇治市文化センター
大ホール
特別講演・義家弘之氏
連続テレビドラマ
「ヤンキー先生母校に帰る」
のモデルの先生

「朝粥会」に出て買った
「主婦バンド」
「リンリン」出演
整理券先着順定員まで
入場無料

困りだなあ

ファミマ店頭のにん入れ

×××
京都市が、ゴミ分別回収の努力をせずに、有償ゴミ袋を使わないと10月からゴミ回収をしないと決めた。順序が間違っているヤン!と言いたいのが、来年の地方選挙でしか言つ場がオヘン。今までからファミマ店頭のにん入れを設置してきたが、家庭ごみを平気でそこへ捨てに来る人(奴)が絶えない。そこへ有料化である。大変なことにならないかと心配で夜も昼も年中無休で寝ずに監視の目を光らそう。ファミマで有料ゴミ袋を気張って売れば防げるかもネ?

ファミマ売りにガンバロウ!

2階キャリーカフェ集
ファミマ弁当等持込可
大型テレビ設置
コピー等2200円
ソフトクリーム4180円

2F/奥は貸しホール・楽々ホール
ピアノ舞台・椅子テーブル有



9月号の「とんからりん」2ページ「10歳若返る漢字問題集」に借りたクイズ問題に「B郡」の「器」は「分」と訂正します。

酒屋で生きて 生かされて

第九話・個人経営 酒谷本店の危機

前号掲載から少し後戻ります。昭和三十年、当時私は色々な事情が有って殆ど家出状態、店は弟が継げばよいと思っていた時期でした。正月に家に帰ると、父から店の経営について相談があり、帳面を精査すると売上が2年続き減少、流動比率では債務超過です。店の債務は総額1600万円で現金預貯金、商品売掛金など資産は1000万弱で資金繰りが大変な状況です。

その原因は三年前にセールス担当の店員に当時の金額で九十万円以上横領され、その損金処理は刑事告発をしない限り容認できないと税務署に言われ店員を告訴しました。その裏付け捜査で警察がお得意先に行きます。横領した金の多くは酒屋さんが「清酒と合成酒を混和」するのを



つ乗った
使った
達ハツ君
配タイ宗
酒自動車
は谷谷ア
る自動車
の自動車
26年
昭和三
いた

秋は今・愈々 醸造酒シーズン ひやおろし・中旬続々入荷

隠す為につくった「裏勘定」です。松原署に告発したのでから東山税務署関税課に資料が廻り「酒税法違反」で罰金や料料始末書を取られた店が出ました。「酒谷本店と取引していた為だ」と地盤の東山区でお得意先が激減したのです。借入金で何とか資金繰りを廻していたのです。

「父にこのまま行くと更に悪くなる、今なら不動産の処分をすれば酒小売の場所が残る」と整理を提案しました。そして三月十五日債権者会議が開かれました。祖母は現状を知り「溺れそうな時は、丸裸になりや、隠したらアカン」と言いました。その言葉どおり全ての財産目録を提出したのでした。

何度が債権者会議が重ねられ、紆余曲折は有りましたが、債権者が資本金半額出資の株式会社酒谷本店で再建する方向になりました。ある日、大口の債権者二社（朝日麦酒・江井ヶ島酒造）から「義郎君は商売とは別の生き方を目指しているのは承知だが店の仕事に参加することが再建する条件だ」と告げられます。父に酒小売なら店員一人で廻れるからその方が良いと思うと述

べましたが「どうしても酒卸を続けたい」と言うので、平社員で夜の行動は制限しないと条件をつけ参加を決意しました。債権者団とは債権半額を長期分割でお願いできましたが、銀行は300万円で抵当に入れていた不動産（店）処分すると返済を強引に求めます。その交渉は20歳の私が担当で日参し、土下座して期日延長を頼んだですが駄目だったのです。

童謡あめふり 北原白秋作詞 中山晋平作曲

「あめふり」は大正十四年に生まれた歌だそうだ。9月、ギャラリーカフェ「集」にて個展「墨遊 中辻長乗作品展」の作者中辻長乗さんも同年にお生れになっている。

おそらく幼いとき、よく耳にされお歌いにもなったのだろう。展示された作品の中に「あめあめふれふれ

かあさんがじゃのめでおむかえうれしいな

ピチピチ

ピヤップ チャップ

ランラン ランラン

と歌詞がひらがなとカタカナで書かれ、余白の蛇の目傘を思わすなだらかな線のしるされた書

のしかたなく債権者団に銀行担保を差替える条件で資金を借りて返済しました。50年前の事でえすが、貸し金回収には情け無用だった関西財閥系の銀行七条支店の扱いは今も記憶から消えませんが、それは後に生きる良い勉強になったのです。感謝

整理から七ヶ月後の昭和31年1月一日付で株式会社酒谷本店に酒卸免許が出て漸く営業が再スタートしました。（次回は酒谷本店危機）



の額があった。（右）前日、展示準備が終って会場に入り「平家物語」の次ぎに目に付いた作品だった。

幼稚園児だったころ、お店が忙しくて預けられたのが、良く一軒置いて隣りの木村さんで遊んでいた。その家の離れで、この歌や「父よ貴方は強かった」などを「蓄音機」で、同じ幼稚園にかよっていた「房ちゃん」と聞いた。

当時、私は「祖父母」に育て

サカタニ友の会員を増やしたい！

サカタニ友の会は左のサービ
スとして
知人・ご友人・ご近所の方
に参加をお勧めください。年
会費1200円で
すがご損はさせません。

新時と年度内
2回・500円買物券を進呈
毎月500円割引券を進呈
この券はファミマ、集西
楽サカタニで使用可
会員様価格での商品配達
試飲会、蔵見学、朝粥会
の会員割引有り。
2階の「集西楽サカタニ」
でお買物は1000円で1
ポイント、配達分は20
0円で1ポイント進呈。
3000ポイントで3000
円のサービスクーポンを
録会員様はカードが無く
ても自動的ポイント加
会員様には、情報紙
内をお届け

未成年やご同業の方、当
社の都合で入会を断る
場合も有。

チベット

聖なる山

カイラスでの約束

(ダイジェスト版)

矢野正明

上海を経て、昆明を隊員10名で、

四輪駆動車で出発したのは2006年5月

2日であった。その2週間前に、入院

している友人の君を見舞いに行った。

彼は喉頭がん発生から8年が経過

していたが、ついに、医者から見離

されたと朗らかに打ち明け、元氣そ

うに振舞った姿がかえって痛々しく、

私にはチベット辺境紀行で、聖なる

山カイラスに立寄り、祈るくらいに

ことしか出来なかった。

わが隊は大理から麗湖までの雲南省

の観光を終え、順調なスタートとなっ

たが、その後は途中の橋が数日後に

は通れなくなり、2日間待たされる

という緊急情報が入った。

急遽、深夜に発進し、ひたすら、メ

コン河源流にある落差4000mの世界一

の渓谷など昼夜を問わず、ひたすら

走った。

狭い難路には防護柵はなく、離合も

ままならず、所々、崩壊し、ガケ崩

れを起こしていた。

峠では凍結した雪道となり、また、

道は所々でなくなっており、岩や砂

山を乗り越え、濁流を水につかりなが

輝く山々のパノラマ、渓谷美などに
しばし時間を忘れたが、すぐに現実
に戻り出発となった。

問題の橋に到着したのは通行止めの

数時間前で、今にも落ちそうな橋を

台ずつ最終行で通過した。

この頃には、隊員の多くが、環境の

変化について行けず、疲労により、

下痢と食欲不振に陥っていた。隊員

の一人は高山病で、緊急入院し、危険

な状態になり、空路帰国していった。

残りの隊員は州都ラサで休養とポタ

ラ寺院など見学した後、西チベッ

トに向かった。

はじめはホテルらしきものもあつた

が、その先は時折、チベット族の食

堂や安宿があるだけで、砂礫地、草

原、山岳地で、標高4000を下ること

はなかった。

途中、人民解放軍(公安)のチェック

を何回も受け、そのたびに、パスポ

ートと写真をまじまじと見られ、緊張

する。

チベット自治区入域、入山には5種類

の許可書を必要とした。

ラサとシガツェ以外は未開放地区で、

個人や一般人は立入ることの出来な

い地区である。

ランクルも故障を繰返しながら、521

kmのマイムラ峠を越えて、我々が目

指すカイラス山の登山基地タルチュ

禿山が連なる悪路をひたすら走っての
日目。四輪駆動に乗ってからは実に
1日が経っていた。

カイラス(6939)は未踏峰の山で、

ヒンズー教徒2億人を始め、チベッ

ト仏教徒、ラマ教徒などが信仰する

アジアの究極の聖なる山と言われて

いる。6月8日にリーダーと隊員3名

に中国人の

四駆ガイド

にポーター

同行で8時20

分に出発。

最初の7k

mは自動車

でも行ける

ので、ラン

クルに乗ら

ないかと誘われたが、私はあくまで、

全区間踏破することに固執し辞退す

る。ここで、体調不良で断念した者

を除いて、後続組はランクルで来る

ことになっていた。

落ち合い場所で待つが、四駆組は見

当たらず、やむなく、リーダーの指

示で、我々3人の隊員は彼らを追いか

けることにする。

カイラス山一周52kmの巡礼をゆっ

くりした歩調で、「黄金峡」と呼ば

れる美しい谷を通り、本日の宿舎地

であるディラプール・コンパに到着。

内に、リーダーも上がってくるが、
同行してないので彼らが行方不明に
なったと騒然となる。

リーダーは疲労困憊で自分のミスに、

顔も青ざめている中、ガイドが急遽

下山していく。

我々の慌てようとは無関係に、カイ

ラス山はいつものように、山と山と

の間に、デンと構え、水晶がダイヤ

モンドのように少し青みを帯びて白

く透き通ったように輝いていた。

やがて、夕陽が岩と雪面を黄金色に

染め、あたかも巨大な金塊のよう

とりわけカイラス北面は神々しい顔

のように見え、何かを語るように私

を見下ろしている。

あまりの美しさに言葉を失った。

これが多数の信者が崇める聖なる山

だとよく理解できた。

輝く山と裏腹に、四駆組のことを思

うと心が痛み、やがて回りも暗闇に

包まれた。

翌日、数日前に降った雪が谷あい

に積もり、凍てついた小川を何回も

渡った。

やがて色とりどりの衣類や靴が散乱

している異様な風景の鳥葬場にやっ

てきた。

死者を鳥に食べさせるために、再度、

人骨まで斧で粉々にすると聞いてい

たので、できるだけ鳥葬場を見ない

(裏面に続く)



白く輝く聖山カイラス。
矢野正明氏撮影

左の絵は、作者矢野正明さんが現地ですケッチされ、帰国後完成されたもの。



(1ページの続き)

そこを過ぎると、石ころだらけの賽の河原のような歩きにくい道が続いた。同僚の足取りが遅くなり、歩いているのと休んでいるの同じくらいになり、焦ったが、その内、私も峠直下ではへばった。

そういった状況で、巡行の最高地点5630mのデルマ峠にはようやく3時に到着。食欲不振のため、少量のビスケットと熱い紅茶を胃に流し込んだ後、ポーターに手伝ってもらい、「Z君 回復祈願」と書いたタルチョ(チベット語で書かれた呪文入りの5色の旗)を氷結した足元の上に掲げた。

日本語のタルチョはどこにも見当た

らず、日本人も我々以外に、ラサを出てから、また、この後も長らく、出会わなかった。

約束を守った安堵感が、急な坂道を足速のポーターを追い、駆けるように下りていく。

そこは、空気が半分しかなく、高山病のことなどすっかり忘れてドンドンと後の2人との距離が離れていき、平地のテント場で大休止となった。

ここからは小川を何回も飛び越え、草地や砂礫地の緩い坂を下り、やがて土が露出し、ホコリに悩まされ、体力を消耗して、脱水状態からか吐気をもよおす。

苦しい、これが高山病の症状かと駆けるように下りたことをひどく反省する。本日の宿泊地のズルフク・コンバに2時に到着。

あいにく、満室で、食堂兼居間で寝ることになり、その夜は2時までチベット人が入れ替わり立ち代り食事とおしゃべりで、眠れなく、夕食もパスした。

ズルフク・コンバの仏様に無事を感じ謝して、深い渓谷に沿って、昼頃にはタルチェンの部落に戻ることに出来た。

部落はどこも満室で、50kmほど離れた人家まで残留組と戻り、遅くに、行方不明の後発組もランクルで帰着した。

彼らはひどく疲れていたが、久しぶ

りに全員集合したことを喜び合った。翌日の9月2日はタルチェンに戻り、年度のサガタワ祭を見に出かけた。

信者と見物人の大観衆の中で繰り広げられる一大ページェントを見て、次のステージ エベレストのベースキャンプに向かった。

最後は国境のヒマラヤ山脈を越え、1カ月にわたる5400mの苦しい四輪駆動のバックパック紀行が終わった。

そして、政情不安を予想していたネパール、カトマンズに入り、翌日、解散となった。

隊員は次々と、バンコック経由で帰国して行った。

私は2人、ネパールで2週間を過ごし、デイリーに飛んだが、あまりの暑さにインド旅行は断念した。

帰国して、しばらくして、病気のZ君のことが気になり、7月6日に、先輩に電話をかけた。

先輩の話によると、Z君は病状が安定し、退院して、自宅療養しており、入院時よりも元気である旨、聞き、ホツとする。

スケッチに色付けも出来、彼の為、ドルマ峠で掲げたタルチョの写真を持って、見舞いに行こうと思っっている矢先の七夕の日に彼からハガキをもらった。

ハガキには見舞いのお礼と、「1日も早く回復し、矢野先輩をはじめ、皆

にお会いしたいと思います。

中国の高山の峠を越えて、巡行にいかれるパワーに心より感動し、私もこの元気を少しでも吸収できればと思います。まずはお礼まで。草々」と言う文面だった。

「内は原文のまま、毎年司会と世話役をつとめていた彼が6月末の同窓会に今年も出てくるように感じ、なんとなくうれしく思った。

そのハガキを受け取った9日後の20日の朝に悲しい知らせが入った。ドルマ峠で掲げたタルチョの写真が届いたのは葬儀の直前であった。

私は深い悲しみと無念さで、どっと疲れが出て、二度とチベットへは行くまいと思った。

ダイジェスト版終わり

サカタニ友の会会員の矢野正明様がお寄せ下さいました。長文の巡行記で紙面の都合でダイジェストの作成をお願いし掲載致しました。巡行記の全文をお読みになりたい方は当社までお申し出下さい。



(注) 文中にある「タルチョ」がチベットの山を背景に翻っている写真です。ネットから借用したものです。